



我ら岬中

= 教育目標 =
**自他を大切にすると態度を養い、
 自己有用感をもてる生徒の育成**

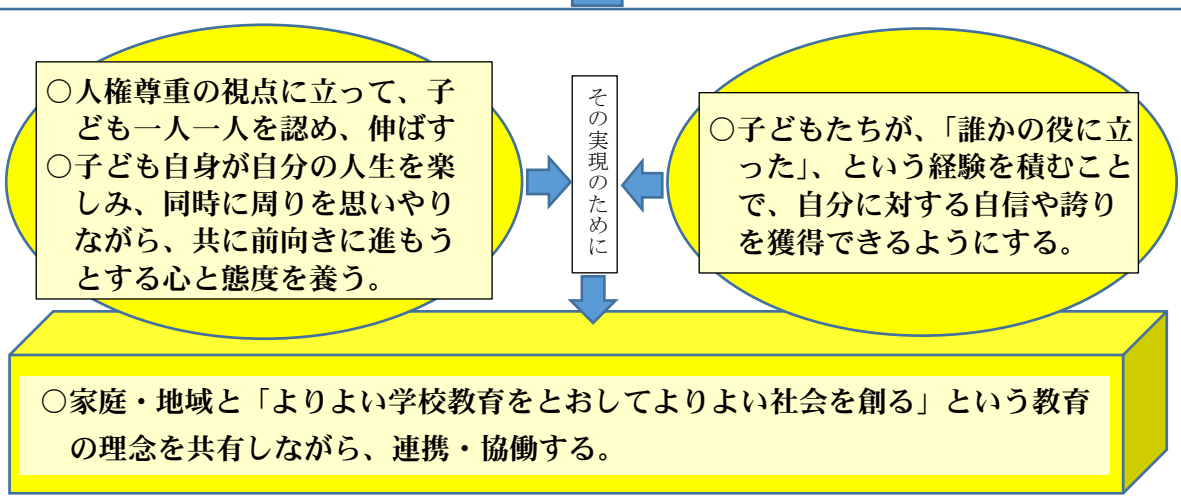
- ・人権尊重の視点に立った学校づくり
- ・「誰かの役に立てた」という集団の一員としての自信の獲得

| | | | |
|---------------|-----|-----|-----|
| いすみ市岬町椎木 1370 | | | |
| | 男 | 女 | 合計 |
| 1年 | 57 | 47 | 104 |
| 2年 | 60 | 43 | 103 |
| 3年 | 51 | 41 | 92 |
| 合計 | 168 | 131 | 299 |

学校教育目標について

2学期が始まりました。「新しい生活様式」にも慣れ、学校生活のリズムも安定してきました。学校教育目標を具現化していける状況が、漸く整いつつあります。岬中の航海は、新しいステージに入っていこうとしています。

自他を大切にすると態度を養い、自己有用感をもてる生徒の育成



<目標の柱>

『人権尊重の視点に立った学校づくり』

「いじめ」等、現代の教育課題には、人権に関わるものが多くあります。学校教育活動全体を通じて、人権尊重の視点に立ち、子ども一人一人の存在が大切にされる学習活動、人間関係づくり、環境づくりを進めていきます。

『自己有用感の育成』

社会や人との関わりの中で、「誰かの役に立つことができた」という経験は、生きていくうえでの大きな自信となり誇りとなります。誰かの役に立った、誰かに喜んでもらったという経験を積み、自分に対する自信や誇りを子どもたちが獲得できるような場面や機会を意図的に設定していきます。

『地域との連携・協働』

上記の2つのことを実現していくためには、学校が、地域の現実と関わり合いながら教育活動を進めていくことが必要と考えます。学校だけで教育を担うのではなく、地域の方々の力をお借りしながら、また、地域の物的資源を活用しながら、社会の役に立つ人材を育てていくことが求められています。そのために、教育の目標を学校が積極的に発信し、地域と共有していくことに努めます。

岬中学校がめざす姿

めざす生徒の姿

- ・自己を理解し、自己を伸ばそうとする生徒
- ・他の人とともによりよく生きようとする生徒
- ・友だちと協働し、よりよく課題を解決しようとする生徒
- ・自ら学び、思考し、表現しようとする生徒
- ・健康・安全に注意して生活できる生徒

めざす学校の姿

- ・自分が価値ある存在であることを実感できる学校
- ・お互いを認め合い、理解し合える学校
- ・生徒・教職員の信頼関係を基盤とした意欲と活気に満ちた学校
- ・発信力があり、家庭・地域と協働する学校
- ・郷土のよさを理解し、積極的に郷土に関わる生徒

めざす教師の姿

- ・情熱と使命感を持って、教育活動の推進に努める教師
- ・人権意識をもち、共感的理解を深められる教師
- ・きめ細かな指導、誠意をもった対応に努める教師
- ・創意工夫しながら、効果的・効率的な教育実践に努める教師
- ・自己研鑽に励み、資質・能力、指導力の向上に努める教師

本校の課題

- ・基本的な生活習慣の定着
- ・情報モラルを含めた規範意識の高揚
- ・家庭学習の習慣化を含む学力の向上
- ・自転車の乗り方を含む交通安全意識の向上と環境整備
- ・教職員の研修の充実
- ・教職員の多忙化の解消

【実践例】『クラスは一人一人の優しさできている』

あるクラスで取り組んでいるのは、「ほめほめシャワー」(写真左)。班ごとに、仲間のよいところを班ノートに輪番で書いて

いきます。仲間の頑張りや優しさをお互いに認め合い、伝え合うことで、他者の優しさを見つめる目を養うとともに、自分も集団の中の大切な存在となっているんだという自信を獲得できる場となります。

《ある日の「ほめほめシャワー」》
 ○○さんへ 給食を配っている時、お皿が遠くてやりづらかったのを近づけてくれた。
 ○○さんへ 日直じゃないのに黒板を消していました
 ○○さんへ 集中して授業に取り組んでいてすごいと思った。

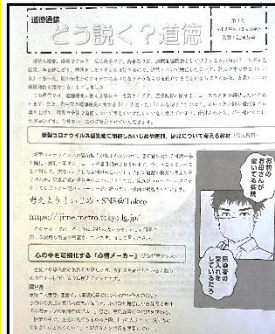
【実践例】『ピア・サポート』～豊かな人間関係づくり実践的プログラム～



ある学年で取り組んでいるのが『ピア・サポート』。(写真左)これは、人間関係づくりには欠かせない行動の仕方や物事の考え方を年間をとおして実践的に学んでいく教育プログラムで、いじめ予防や互いに思いやることのできる集団づくりに有効とされています。

友だちとケンカした。その時はカッとしてわからなかったけれど、あれは自分の思い込みだったのかもしれない。そんなことがよくありませんか。自分の思い、考えをきちんと言葉で伝え、相手の気持ちもきちんと受け止める。そんな、人間関係づくりに必要な力を育む取組です。

【実践例】『道徳の授業充実のための校内研修』



人間としての生き方について考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる要となるのが道徳の授業です。その充実のため、道徳教育推進教師を中心に、道徳の授業の校内公開や職員向けの道徳通信(写真左)の発行に取り組んでいます。先日、発行された道徳通信

では、新型コロナウイルス感染者に対する偏見・差別について考える道徳教材が紹介されました。
 《ある日の道徳の授業の感想》
 私はルソーのようになりたいと思った。周りの人を幸せの涙を流させる位、幸せにしたいと思った。そして、お互いをそんな風に思えるほどの友情を結べたらなあ、と思う

千葉県大会で2位！ ～陸上競技部 さん(2年)～



練習する さん

8月1日、千葉県総合スポーツセンター陸上競技場で開催された『第66回全日本中学生通信陸上競技大会千葉県大会(アシックスチャレンジカップ)』で、さん(2C)が、女子1500mの部に出場し、見事、第2位に輝きました。タイムは、4分42秒の自己ベスト。新型コロナウイルス感染拡大で部活動が制限される中、毎日、朝と夜、自主練習を重ねてきた成果が表れました。目標である全国大会出場を目指して努力を重ねる さんを、みんなで応援したいと思います。

◆ さんの話「練習不足だったけれど、その中で自分の持っている力は発揮できた。次はジュニアオリンピック予選があるので、タイムを更新して、本大会に出られるように頑張りたい。」

クララ先生がやって来ました！

前ALT(外国語指導助手)のナタリー先生の帰国にともない、後任として、クララ(Clara)先生が着任しました。クララ先生はアメリカウィスコンシン州出身で、岬中での勤務は2回目となります。これにより、本校ALTはクララ先生とジェブ先生の2人体制となります。

◆クララ先生の話「My name is Clara, nice to meet you. Let's start the second semester off great! Of course let's speak English with a smile! (私の名前はクララです。どうぞよろしくお願ひします。2学期も素晴らしいスタートにしましょう。勿論、笑顔で英語を話そう!)」

